

ジェイクおじいちゃんのお話シリーズ



ゆかいな
むし
虫たち：

リンカーンの こもりうた 子守歌



「おじいちゃん、ねる前の^{まえ}お話^{はなし}をしてくれる？」 トリスタンが^い言いました。

「もちろんだとも。」と、おじいちゃん。

「ドゥルーディと^{むし}虫^{はなし}たちの^{ほか}お話^{はなし}って、他^きにもある？ もっと聞^ききたいな。」
と、トリスタン。

「そうかい。ちょうど、ぴったりの^{はなし}お話^{はなし}があるよ。ドゥルーディの^{とも}友^{とも}だち、
テントウムシのリンカーンの^{はなし}お話^{はなし}だ。この^{はなし}お話^{はなし}も、ねる^{とき}時に^{はじ}始^{はじ}まったんだ。」



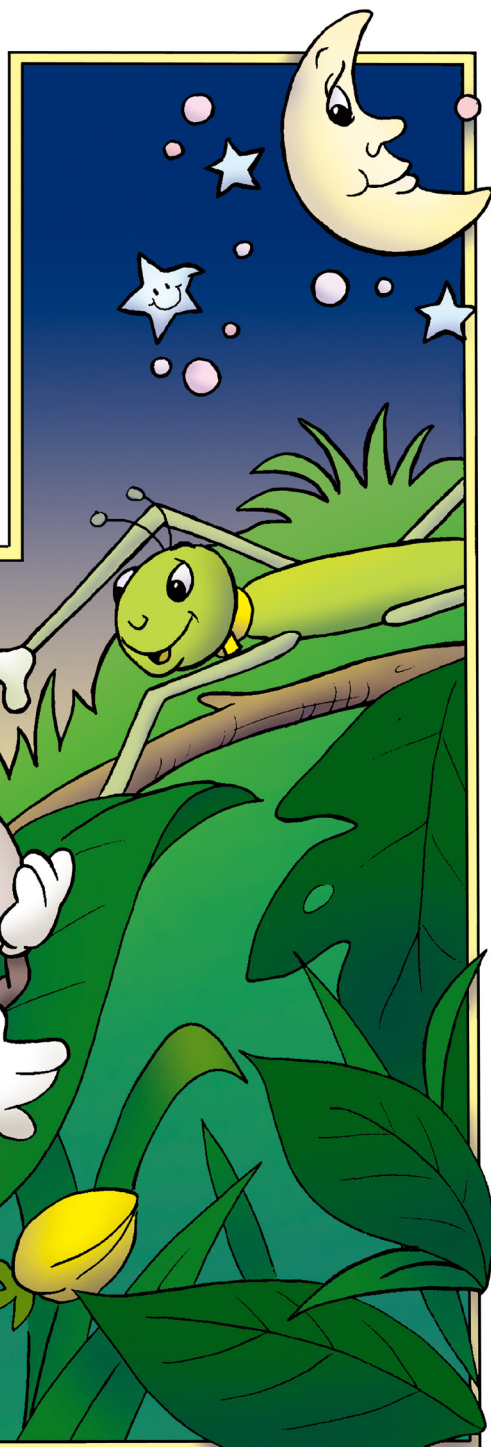
トリスタンはベッドの^{なか}中^{なか}でじっとして、おじいちゃんのお話^{はなし}に^{みみ}耳^{みみ}をかたむけます。

「ある^{よる}夜^{よる}、こ^こども^こたちが^{はい}ベッ^{はい}ドに入^{はい}ってねようとしていた^{とき}時^{とき}のこと。
そこには、2匹^{ひき}の^{むし}虫^{むし}たちがいました・・・。」



「きらきら ^{ひか} 光る、^{そら} お空の
^{ほし} 星よ・・・」 ^は 葉っぱの
^{うえ} 上に ^{ころ} ねっ転がって ^{ほしぞら} 星空を
ながめながら、リンカーンが
^{うた} 歌い始めると・・・

「まばたきしては、みんなを
^み 見てる」 ^{くわ} ウォーレスも
加わって、^{ひき} 2匹は いっしょに
コーラスしました。



^{こもりうた} 子守歌を ^{うた} 歌い終わると、^お リンカーンと ^{おと} ウォーレスは シーンと
^{しず} 静まりました。 ^{ちか} 近くの ^お 小川が ^{なが} ちょろちょろと ^{おと} 流れる ^は 音が
します。 ^{かぜ} そよ風が、 ^き そっと ^ぎ ささやきながら、 ^は 木々の ^は 葉の
^{あいだ} 間を ^{ほか} すりぬけていきます。 ^{ほか} その他にも、 ^{おと} いろんな
^{おと} 音が ^な してきました。 ^な コオロギの ^{ごえ} 鳴き声に、 ^{ごえ} エサを
^{まわ} さがし ^な 回る ^{ごえ} フクロウの ^{ごえ} 鳴き声、 ^{がっしょう} カエルたちの ^{あしおと} 合唱に、
^{おと} エサを ^{はし} 求めて ^{まわ} あちこち ^{あしおと} 走り回る ^{あしおと} タヌキの ^{あしおと} 足音も。

リンカーンとウォーレスは、 ^{よる} じっと ^{おと} 夜の音に
^き 聞き ^い 入りながら、 ^あ ホタルの ^{いけ} 明かりが ^い 池の
^{まわ} 周り ^{ようす} で ^み おどる ^み 様子 ^み を ^み 見つめていました。

「^{こもりうた} 子守歌が ^{つく} 作れたらなあ。」 ^い リンカーンが
ため息 ^い を ^い つきました。

「やってみたら？」と、ウォーレス。

「^む 無理だと ^{おも} 思うなあ。 ^{いま} だって、 ^{いま} 今までに
^{うた} 歌を ^{つく} 作った ^{こと} ことなんて、 ^{ない} ないもの。」

「^{こもりうた} きっと、 ^{おも} すてきな ^{こもりうた} 子守歌が
できると ^{おも} 思うよ。」と、ウォーレス。

「じゃあ、やってみよう
かな・・・。 ^{かんが} 考えてみるよ。」
と、リンカーンが
^い 言いました。



2ひきは ^{やす}お休みなさいを ^い言うと、
^は葉っぱの ^{うえ}上で ^{がえ}ね返りました。

ウォレスは ^{すぐ}すぐに ^{ぐっすり}ぐっすり ^とと ^{ねむって}ねむって
しまいましたが、リンカーンは ^{こもりうた}子守歌を
^{つく}作りたくて、いろいろ ^{かんが}考えていました。
(^{こもりうた}子守歌なんて、^{ほんとう}本当に ^{つく}作れるかなあ？
できなかつたら、^{どう}どうしよう？)

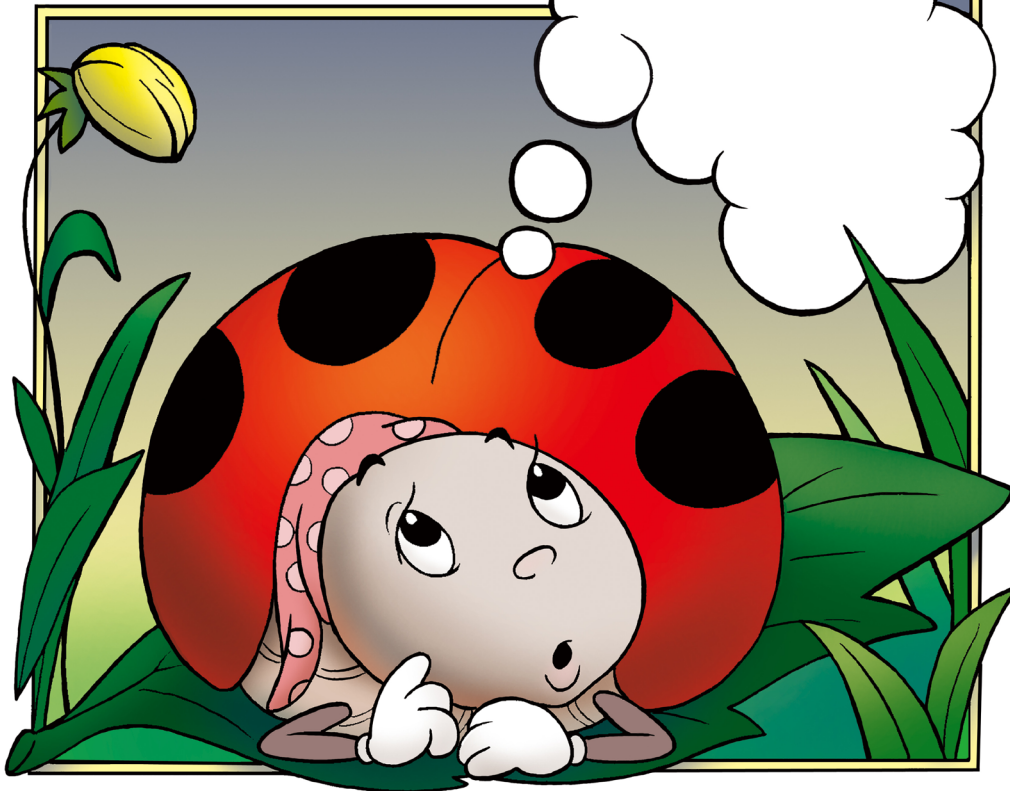
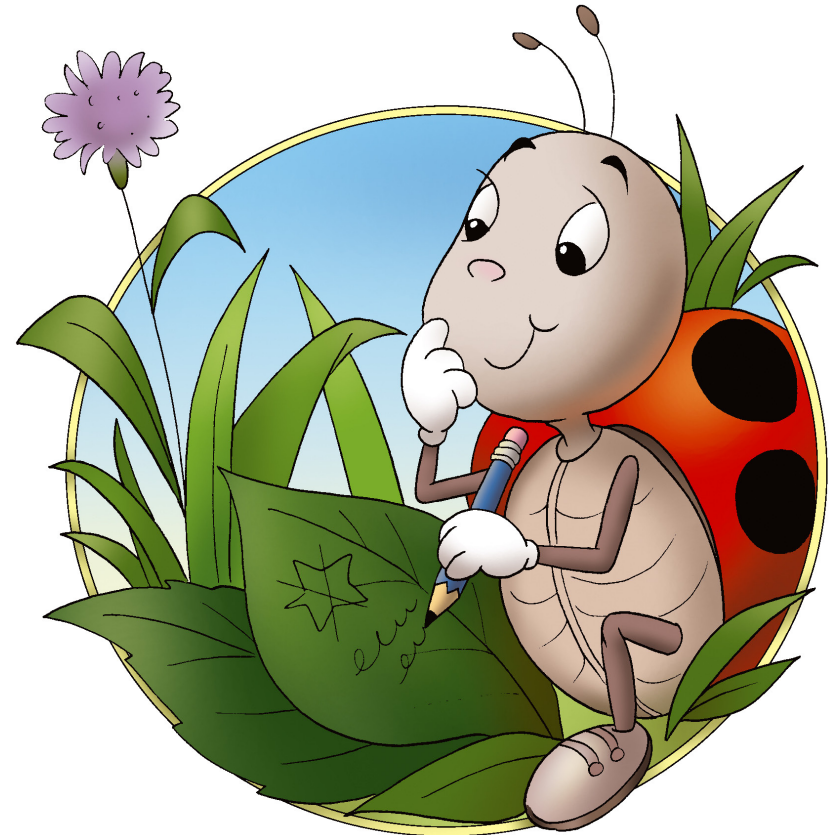
しばらく ^{かんが}考えていましたが、
まもなく ^{リンカーン}リンカーンも、^{こころ}心地よい
ねむりに ^{つき}つきました。

^{こもりうた}子守歌なんて、
^{ほんとう}本当に
^{つく}作れるかなあ？
できなかつたら、
^{どう}どうしよう？

^{つぎ}次の日、リンカーンは ^{しず}静かな ^{ばしょ}場所に ^と飛んで行き、そこで
^{さくし}作詞を ^{こころ}試みました。歌詞を ^か書くのに ^かちょうど ^いいい ^は葉っぱを
^み見つけると、^{すわ}すわって、^{じく}じくりと ^{かんが}考え始めました。

「^{だいざい}題材は、^{なに}何が ^いいいかなあ？ ^{ほし}星は ^いどうかな？」 ^いそう ^い言
いましたが、^{くび}首を ^{よこ}横に ^{ふり}ふりました。「^{じゃあ}じゃあ、^{よる}夜の ^{どうぶつ}動物たち？」
^{いや}いや、^{それ}それも ^{ダメ}ダメ。リンカーンは ^{かお}顔を ^{ゆが}ゆがめました。

「^{ふーん}ふーん。やみは ^いどうかな？ ^{よる}夜の ^{おと}音は？」 ^{しま}終いには、
^{かな}悲しそうな ^{うめき}うめき声 ^をを ^{あげ}あげました。「^{なに}何についての ^{こもりうた}子守歌に
したら ^いいいかも ^わ分からないのに、^{これ}これじゃあ、^{うた}歌なんて
^か書けないや。」





したかったことが
できなくて、すっかり
しょげこんでしまったリンカーンは、
かな 悲しそうな 声をあげました。「ぼくは、
なに 何もできないじゃ ないか！ やってみよう
なんて、しなければ よかった。」

ちょうど その時です。後ろから 声がしました。
「ああ、そこにいたんだね！ ずっと、君を さがしてたよ。」
それは、ウォーレスでした。

「どうしたんだい？」 悲しそうな リンカーンを見て、
ウォーレスが たずねました。

「何でも ないよ。」 何と 言ったら
いいか 分からず、リンカーンは ぼそっと 言いました。

「落ちこんでるみたいじゃ ないか。」 そばに 来て、ウォーレスが
言いました。

何も ないと言っても むだだと 気付いた リンカーンは、
かたを すくめて ため息を つきました。「本当は、何でも なく
ないんだ。夕べは、子守歌を 作りたいて 言ってたでしょ？」

「そうだね。」と、ウォーレス。

「考えてみたんだけど、今日 書いてみようって 思ったんだ。」

「わあ。すてきなのが 書けると 思うよ。」と、
ウォーレス。

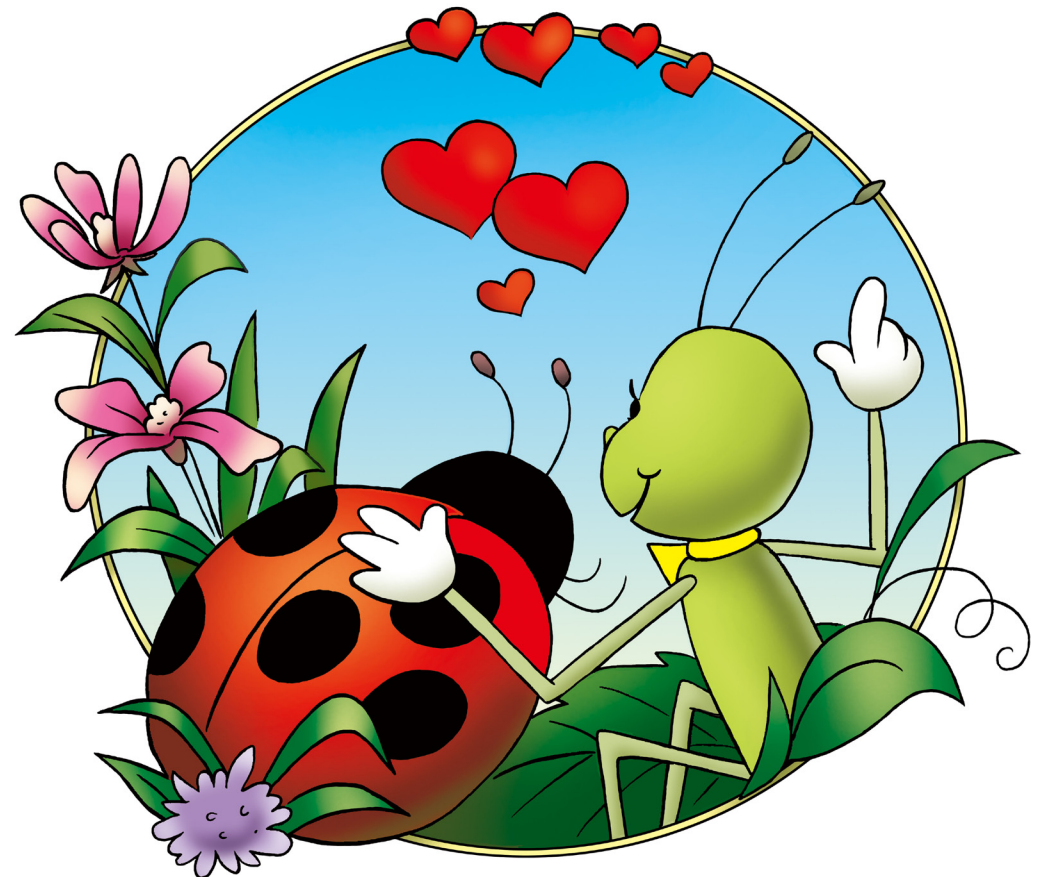


「かわいそうに。だけど、あきらめるのは ^{はや}早いよ。できるように
なるまでには、何 ^{なん}度も やって ^{なん}みなくちゃ いけない ことだって
あるからね。」と、友だちの ウォーレスが ^い言いました。

「無理だよ！ ぼくには ^{こもりうた}子守歌なんて、ぜったい ^か書けないよ！」と、
リンカーンが ^な泣き言 ^{ごと}を ^い言いました。

ウォーレスは ちょっと ^{かんが}考えていましたが、しょげ返っている ^{かえ}友だち ^{とも}に
^い言いました。「祈 ^{いの}って、神様 ^{かみさま}に ^{たす}助けて ^{たす}くださいって、^{ねが}お願い ^{ねが}した？」

リンカーンはうつむいて、首 ^{くび}を ^{よこ}横 ^{よこ}に ^{ふり}ふりました。



「お願いすると いいよ。ぜったいに、神様は 助けてくださるから。ぼくも
手伝うよ。ぼくだって、子守歌なんて、作ったこと ないけど。初めてでも、
神様が 助けてくださるなら、二人で できるよ。」と、ウォーレスが 言いました。

「それは いい 考えだね。君は いい 友だちだよ、ウォーレス。」と、リンカーン。

二人は いっしょに 祈りました。

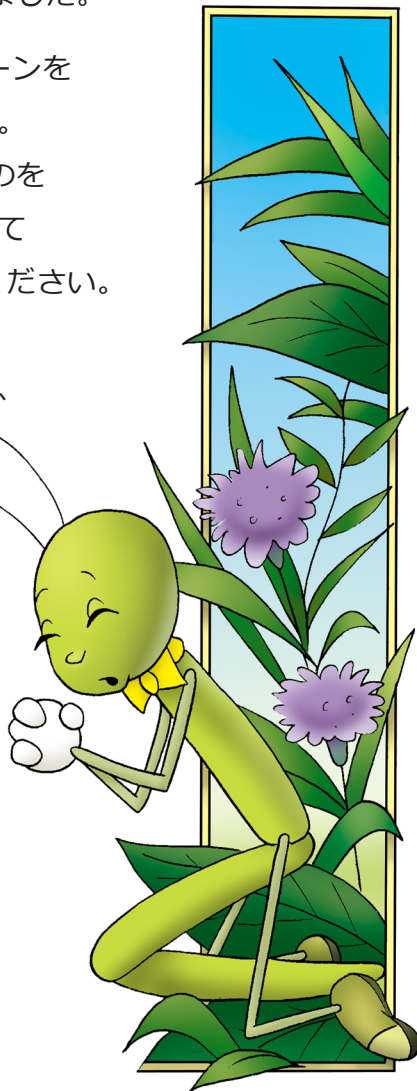
「神様、どうか、リンカーンを
元気付けてあげてください。
ぼくたちが 子守歌を作るのを
助けてください。何について
書いたら いいか、教えてください。

うまく 書けないようでも、
がんばり続けられるように、
助けてください。

「アーメン。」と、
ウォーレス。

すると、リンカーンが
言いました。「思い
付いたんだけどね。
夜の音については
どうかな？」

「それは いいね！」



まもなくすると、
子守歌の歌詞とメロディーが
まとまり始めました。
行きづまるたびに、
ウォーレスとリンカーンは
また いっしょに 祈って、
神様に 助けを 求めました。
そして ついに、子守歌が
出来上がりました。



その夜、
つきあ
月明かりの
した
下で、リンカーンと
ウォーレスは、その
こもりうた とも
子守歌を 友だちの
むし
虫たちのために うた
歌いました。

2ひきが うた お
歌い終わると、
ビッツが こえ
声をあげました。
「とっても すてき！ わたしも、
その うた おほ
歌を 覚えたいわ。」
ファイアリーも、
うなずきました。

リンカーンは、
さいこう しあわ
最高に 幸せでした。



「すてきな ^{はなし} お話だね。ぼくも、
いつか ^{こもりうた} 子守歌を ^{つく} 作るの、^{てつだ} 手伝って
くれる？」と、トリスタンが
たずねました。

「もちろんだとも。その時は、
リンカーンと ウォーレスが ^{まな} 学んだ、
あきらめない ことや、^{かみさま} 神様に
^{たす} 助けを ^{もと} 求める ことなんかを
^{おも} 思い出しながら やると いいね。」と、
ジェイクおじいちゃんが ^い 言いました。

トリスタンは ほほえんで、
あくびを しました。「おじいちゃん、
ねる ^{まえ} 前に、リンカーンの ^{こもりうた} 子守歌を
^{うた} 歌ってくれない？」

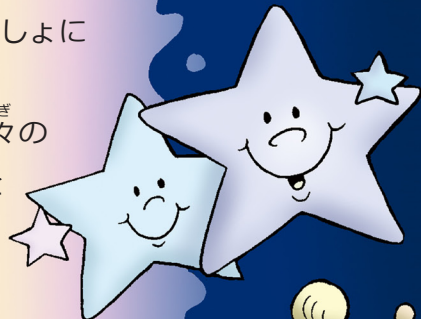
「それじゃ、^{うた} 歌ってあげよう。
^め 目を 閉じてごらん。」

よる こもりうた
夜の 予守歌

あた くら
辺りが 暗くなって
ほしほし そらたか かがや とき
星々が 空高く 輝く 時、
よる さまざま
夜が もたらす 様々な
おと き
音を 聞くのが 好き。

な ごえ
コオロギの 鳴き声が する。
カエルたちも、いっしょに
うた はじ
歌い始める。
くさ き ぎ
シート。草や 木々の
は あいだ
葉っぱの 間を
サラサラと
とお
通りぬける
かぜ おと き
そよ風の 音も 聞こえるよ。

しず
静かにして、
みみ
よく 耳を すまして。
よる はなし みみ
夜のお話に 耳を かたむけよう。
ちか とお
近くから、遠くから、
どこに いても
き
聞こえてくるからね。



きょうくん
教訓：

むずかしくて、できそうに
ない ことでも、あきらめない
ことが たいせつ かみさま たす
大切。神様に 助けを
もと たす
求めれば、助けてくれる
からね。

